

隨筆・提言

内閣府から「沖縄復帰三十周年記念写真集」雄飛する沖縄」をいただいた。この中では、空港や道路などの社会資本の整備ぶりを報告、そして観光や情報通信施設など沖縄の特性を活かす取り組みを写真でわかりやすく示してくれた。ただ、ページをめぐりながら感じたのは、ほかの県とあまりかわらないな、ということだった。政府・国にとって沖縄は様々な意味で特別な存在である。だから沖縄総合事務局もある。なのに写真集では、どこにでもあるようなコンクリートのぼこりっぽい色が目立つ。沖縄の鮮やかな色彩が少ないので、テレビで働く身としては、こういうことは気になる。

この稿を「ゴールデンウィークに書いている。ことしも沖縄自動車道の許田インターが渋滞しているようだ。こんなことを聞いた。「もう南部・中部にはきれいなビーチがあまりないから仕方なくやんばるに行く。子供たちに沖縄の海はみんなこんなだつたんだよ、と教える」というのだ。県外から来る観光客に聞いても、人工ビーチで泳ぎたいとは思わないという。写真集から受ける印象

は、やはりこの「埋めていく」均（なら）していく「嘗みなのだと」思う。沖縄だけない、日本中で行われてきたことが行われた結果だということだ。この嘗みがないと潤わない、追いつけないことは承知している。

は、やはりこの「埋めていく」均（なら）していく「嘗みなのだと」思う。沖縄だけない、日本中で行われてきたことが行われた結果だということだ。この嘗みがないと潤はない、追いつけないことは承知している。

一方で、鮮やかな色彩を、島々の各地で目にした。多良間の八月踊りでは緑の木陰と赤・黄色の衣装を。黒島の豊年祭では青い海と青年の白い衣装を。平安座サングワチャードでは大きなはりぼての魚の金色を。与那国島の豊年祭ではドウタティの襟の黒さを。知念の浜エーグトでは豚の赤い血のいろ



歌や踊りの形がちゃんと伝えられていて良かったといふ文脈だったし、「甘えている」とは言い過ぎかとも思いうが、感覚としてはストンと腑に落ちた。つまるところ、言葉は悪いが、食いつぶしている、切り売りしている気がする。沖縄は、発展の仕方がちがっていてもいいのではないか。もちろんこれは、本土から、しかも、あとから来た者の思うことであるし、基地の問題が依然としてある。

「復帰四十周年記念写真集」がもし世に出るなら、開業したゆいレールや国立劇場おきなわ、そして大学院大学の写真などが載るだろう。そこには加えて、先人の遺産を伝え、発展させた、ほかにはない鮮やかな色の「沖縄の嘗み」が記されてほしい。そうなれば、今回の写真集には少ない「人の姿」が多く見ることができるだ。

人のあいだで、三線を習い始めた材に关心を持ち、勉強を始めた人も知っている。「これからは文化の時代なので、世界遺産などを積み重ねて、自分の中で整理することが実を、自分の中で整理することがまだできない。ある沖縄の芸能に携わる人が「先人がのこしてくれた遺産に甘えていると思う」と言っていた。これは、古典をはじめ、数々の歌や踊りの形がちゃんと伝えられていて良かったといふ文脈だったし、「甘えている」と遠慮がちに、でも自信をもつて話していた。